

函館北ロータリークラブ会報



ROTARY:
MAKING A
DIFFERENCE

2017~18年度 国際ロータリー テーマ

ロータリー：変化をもたらす

2017~18年度 国際ロータリー会長

イアン・ライズリー

深瀬晃一 会長 テーマ “地域を愛し、地域を育む”

★会長 深瀬 晃一 ★幹事 斎藤 秀司

《第2594回例会》第27号 3月7日(水)

本日のプログラム

卓話「函館北ロータリークラブの
ホームページについて (仮題)」

函館PCサポート 山根 寛氏



2月28日 卓話

亀田八幡宮 宮司 藤山 敬廣氏

2017~2018 <第2593回例会>

第26号 2月28日の記録

- ◎司 会 深瀬 晃一 会長
- ◎斉 唱 手に手つないで、四つのテスト
- ◎ゲ ス ト 亀田八幡宮 宮司 藤山 敬廣氏
- ◎会長報告 深瀬 晃一 会長
○特にありません。
- ◎幹事報告 斎藤 秀司 幹事
○3月よりロータリーレートが110円から108円に変更になります。
- ◎親睦活動委員会 増山 正 委員長
ニコニコBOX投入報告
小笠原会員……ご無沙汰しました。ロータリーに出席したくて来ました。
深瀬会長・山下会員・石橋会員・吉田会員
……亀田八幡宮 宮司 藤山さんを歓迎して。
森会員……道路が悪い状態です。車の運転に気を付けて下さい。
増田会員……明日から天気荒れますので気をつけて下さい。
南木会員……ニコニコBOXに協力。

◎卓話「亀田八幡宮、その他について」

亀田八幡宮 宮司 藤山 敬廣氏

当社は明德元年(1390年)ご創祀との記録があるが、明応という記録もある。船魂神社はもっと古い歴史があり、1280年代のご創祀である。道南地域では鎌倉末期、室町の始めから我々の祖先が移り住んでいたことになる。明治2年8月15日に太政官が蝦夷地を北海道とするという布告をだし、北海道となって150年である。7月17日を北海道の日とする話があるが、その根拠は松浦武四郎が北海道という地名を提案した日である。それは政府の一役人が案として出した日であり、実際は8月15日に北海道と改称され、今日に至っている。どうして松浦武四郎がとりあげられたかといえば、アイヌと交流が深かったからという。

慶長8年松前藩の祈願所に定められ、この少し前に松前慶広が徳川家康に拝謁して松前姓を得た。

正面の鳥居は弘化4年、当時の箱館奉行・工藤茂五郎が奉納した鳥居である。この方は松前藩としての最後の箱館奉行で、ペリーが箱館に来た際の対応役となり、これを機に弁天台場や五稜郭が着工された。

文久3年(1863)、社殿が改築される。弁天台場が出来た年で京都では新撰組が結成された。五稜郭はその翌年完成。弁天台場や五稜郭の石垣を作った石工棟梁喜三郎が当社の狛犬を奉納されている。

戊辰戦争が慶応4年に始まり、明治2年(1869)に五稜郭の戦いが勃発。新政府軍が4月9日に北海道に上陸し、5月11日に五稜郭への総攻撃があった。この時に土方歳三が五稜郭を出て弁天へ向かい、その途中土方歳三の碑の所で亡くなった。5月11日が函館護国

神社の例祭日となっている。全国の護国神社は先の大戦の頃作られたところが多いが、函館の護国神社は明治時代から招魂社として存在している。明治2年5月15日当社の境内でも戦いがあり、「新開帳記」には、徳川勢が亀田八幡宮に集まったが、木が生い茂っていて弾が届かず、官軍も一度下がって神山から大砲を打ち出す、と記録があり、弾の跡が旧社殿に残っている。5月17日両軍が会見し社殿前で降伏の請願がされる。黒田清隆、榎本武揚らが神社にお参りし、ご神前にその旨を報告したとの記録がある。そのわずか3ヵ月後の8月15日に北海道と名が変わる。

明治9年明治天皇北海道御巡幸の際、7月16日北海道に入り、17日七飯の農場をご覧になって、その後当社の前を通過して五稜郭を視察、18日箱館をたち20日横浜にお着きになられた。その7月20日が海の記念日で、函館にとっても縁のある日である。

次に「神様と暮らしてきた日本人のしきたり」ということで、我々日本人のしきたりについてお話しします。

「お祓い」神社にお参りするとき、まずお祓いをする。木の棒に麻や木綿（ゆう）がついた大麻（おぬさ）でお祓いをする。

お祓いの方法に「禊（みそぎ）」がある。海に入って御神体を清めることで、古事記・日本書紀に書かれている。それが簡略化されたのが、お塩でのお清めである。普通の神社は麻とか木綿でお祓いするが、伊勢神宮ではお塩でお祓いする。一方、水でのお清めは、神社にお参りする前に手水舎といって、手や口を清める。お通夜の後、塩でお清めする。葬式は穢れたものではないと言われるが、「気枯れ（穢れ）」とは「汚い」ではなく、気が枯れること。「気」とは「普段」のことで、普段の状態ではないことを「気枯れ（穢れ）」という。その穢れの状態から普段の状態に戻るために、お祓い、禊をする。「気」の反対の日本語は「晴」、お祭り・お正月は「晴れの日」、その時の着物を「晴れ着」という。ひな祭りではお雛様に気枯れを託して川に流したり、七夕には短冊を流す地方もある。端午の節句では菖蒲が気枯れを祓ってくれる植物として昔から用いられている。各節句に「祓い」とい

う行事が残っている。9月9日重陽の節句は菊で、菊も毒を祓うという意味がある。

「お正月」とは歳神様をお迎えするのが、もともとの意味です。「歳」とは稲の実りのこと。万葉集に歌が残っている。「わが欲りし雨は降りきぬかくしあらば言挙げせずとも歳は栄えむ」。欲しいと思っていた雨が降ってきたので、言挙げ（お祈り）しなくても、稲が栄えるだろう、という歌である。この「歳」は稲の実り、稲の一生を指す。稲の実りまで一年かかることから、後々「歳」という言葉が一年という期間を表すようになった。先日祈年祭が神社で行われたが、年を祈る祭り、つまりその年が豊作であることを祈る祭りで、秋にはその収穫を神様に感謝して、新嘗祭をする。勤労感謝の日は新嘗祭の日である。神様に感謝していた日を祝日として残すために勤労感謝の日となった。歳神様は恵方の方からやってくると考えられていた。その歳神様をお祀りするために、神棚や恵方棚を作り始めたのが神棚の始まりといわれている。その年の恵方にお参りするのが流行りはじめたのが、今の初詣の始まりである。初詣は昔は近くの神社に籠って、新しい年をお祝した。今年取りを大晦日の晩に家族で食事をしたりするが、なぜ大晦日なのかといえは昔は一日の始まりが日が暮れた夕方、太陽が沈むともう次の日が始まることから、大晦日の晩に年取りを行う。

神話の世界から、神様から私たちの命が繋がってきて、我々がいるというのが日本人の神様、祖先の考え方でもある。神社によっては実在の人物を祀っている神社もあり、祖先も神様も同じ系列の中で考えてきた。そういう意味で正月は祖先をお迎えする行事でもあり、それと対をなすのが、「お盆」である。お盆もご先祖様を祀る行事である。お盆のときにはご先祖さんをお迎えし、終わったらまた、ご先祖さんをお送りするのが日本人。インドや中国では折角極楽浄土へいった方を呼びもどしません。毎年お迎えするのは日本人だけ。

神々の時代から日本人はご先祖様をとおして、繋がっているというのが日本人の考え方である。

（会報担当者：渡部 二康 委員長）



（株）北洋舎 *新しい技術と信用で新調仕上げ*

クリーンク工場

〔本 社〕	函館市松川町18-3	☎41-6252
〔セ ー ル ス〕	函館市西桔梗町855-7	☎48-7787
〔リネンサプライ工場〕	亀田郡七飯町字中島205-3	☎65-0375
〔昭 和 工 場〕	函館市昭和4丁目17-1	☎41-7931
〔万 代 工 場〕	函館市万代町22-7	☎40-1062
〔港 工 場〕	函館市港町3丁目18-35	☎40-3422

（広告掲載：吉田 勤 会員）

◎ 2月7日出席報告（森 秀樹 委員長）

会 員	18名	出席率対象会員	17名
		出席規定免除会員(a)	1名
		出席規定免除会員(b)	1名
当日出席	13名	当日欠席	4名
他クラブ出席	2名	出席合計	15名
出席率		88.24%	

次回のプログラム

2018年3月14日(水)

会長エレクト研修セミナー報告

成田 豊 会長エレクト

テレフォンサービス(例会移動案内) 電話 26-3170番